

DANG ダン・タイ・ソン THAI ピアノ・リサイタル SON PIANO RECITAL



©藤本史昭

2014年11/27(木) 19:00 紀尾井ホール

Thursday, November 27, 2014 at 7 p.m. Kioi Hall

全指定席¥11,000 プラチナ券¥16,000

プロコフィエフ: 束の間の幻影 op.22(抜粋)
Prokofiev: Selection from "Visions fugitives" op.22

シューマン: ダヴィッド同盟舞曲集 op.6
Schumann: Davidsbündletänze op.6

ラヴェル: 高雅で感傷的なワルツ
Ravel: Valses nobles et sentimentales

ソナチネ

Sonatine

亡き王女のためのパヴァーヌ

Pavane pour une enfante défunte

水の戯れ

Jeux d'eau

ラ・ヴァルス

La Valse



主催: KAJIMOTO

ゆっくりと確実な歩みを進めるダン・タイ・ソン——3人の作曲家の作品で打ち立てる新機軸

ダン・タイ・ソンのモットーは、「ゆっくりと確実に」。これはデビュー当初から変わることなく一貫したもので、すべてにおいて自身の内面とじっくり対峙し、歩みを進めている。

彼は来日公演のたびに新たな側面を提示し、ショパンからモーツァルト、シューマン、メンデルスゾーン、リスト、ロシア作品、フランス作品へと地平を拓いてきたが、いずれも特有の繊細な美音に貫かれ、技巧と表現力、音楽性を最大限極め、ひとつひとつの音楽が生きた物語となって聴き手の心に届けられる。

その音の語らいが今回はプロコフィエフとシューマン、ラヴェルというダン・タイ・ソンがいま集中的に演奏している作品で披露されることになった。プロコフィエフの「束の間の幻影」は若き作曲家の非凡な才能がエッセンスのように詰まった作品で、ダン・タイ・ソンのモスクワでの素地が生かされる。シューマンの「ダヴィッド同盟舞曲集」は作曲家の心のなかを描き出す傑作で、各曲が幾重にも変容を遂げていく様子がダン・タイ・ソンの鋭敏な感性により、詩的に表現される。さらにラヴェルは子どものころから親しんできた作曲家だ。

このプログラムは幻想的で夢見るような曲想と個性的な舞曲のリズムに彩られる一方、各作曲家が新機軸を打ち立てた作品という共通項が存在する。まさにダン・タイ・ソンの新機軸をも示唆し、創意と工夫が全編にあふれるのではないだろうか。そこには敬愛する作曲家の魂に寄り添うダン・タイ・ソンがいる。

伊熊 よし子 (音楽評論家)

ダン・タイ・ソン (ピアノ) Dang Thai Son, *Piano*



ハノイ生まれ。1980年のショパン国際コンクールで優勝し、アジア人初の快挙として大きな注目を集めた。以来ニューヨークのリンカーンセンターやパリのサル・プレイエル、ウィーンのムジークフェラインなどの檜舞台をはじめ、40カ国以上で演奏活動を行っている。これまでマリナー、ヤンソンス、スピヴァコフらの指揮のもと、レニングラード・フィル、モントリオール響、BBCフィル、チェコ・フィルなどと共演し、日本へはオラモ指揮バーミンガム市響、ネルソン指揮パリ室内管、そして2011年にはP.ヤルヴィ指揮パリ管とツアー・ソリストとして同行した。上記のほかにも、最近では2010年にワルシャワでブリュッヘン指揮18世紀オーケストラと共演したり、ショパンの誕生日にアルゲリッチやユンディ・リらとガラ・コンサートに出演。またアルゲリッチ、フレイレ、ダヴィドヴィチらとショパン・コンクールの審査員を務めた。2012年にはすみだトリフォニーホールで、クルス指揮新日本フィルと、ベートーヴェンのピアノ協奏曲全曲を演奏。

CDはグラモフォン、ソニー、ビクターなどから発売。2008年にはブリュッヘン指揮18世紀オーケストラと、ショパンの協奏曲2曲(エラーール・ピアノ使用)を録音して話題となった。2010年にはビクターからショパンのマズルカ全集をリリース。

カナダ在住。

ダン・タイ・ソン2012年来日時の批評より (ドビュッシー・プロ)

ともかく隅々まで精妙に練り上げた、とてつもなく完成度の高い演奏だ。濃やかな音の動き、鋭敏なリズム、和音の響きとその連なりが生み出す色合いの推移、微細に変化するダイナミクス、これらすべてが完璧なコントロールのうちに有機的に結び付いて、明晰でありながら陰影に富んだ洗練された美の世界を作り出す。《映像第1年》にしる《前奏曲集第1巻》にしる、これほど透徹した演奏に実演で接し得る機会は滅多にないだろう。アンコールの〈花火〉の精緻な運動性などまさに圧巻。ドビュッシー記念年に相応しい名演に魅了された一夜だった。

(寺西基之 / 「CHOPIN」2012年8月号から)

ダン・タイ・ソンのドビュッシーにおける、細やかなリズムの鼓動や水墨画を見るかのような淡く、しかも深い陰影に満ちた音色は、まさに東洋人の彼だからこそ表現できる音楽である。不鮮明な音の混濁や滲み、そして感傷的な情緒に耽るドビュッシー演奏が多い中、ダンのドビュッシーはぎわめてクリアであった。

(道下京子 / 「音楽の友」2012年8月号から)

チケットのお申込み

カジモト・イープラス

検索

<http://kajimotoeplus.com/>

カジモト・イープラス 0570-06-9960

※音声自動応答で承りますが、オペレーター(10:00~18:00)もご選択いただけます。ホームページからお申込みいただけます(パソコンもケータイも同じアドレス)。

0570で始まるナビダイヤル番号は、PHS、IP電話など一部の回線からは接続されない場合がございます。NTT加入電話、公衆電話などをご利用願います。

チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード: 227-859)

e+(イープラス) <http://eplus.jp/>

CNプレイガイド 0570-08-9990

ローソンチケット 0570-000-407

紀尾井ホールチケットセンター 03-3237-0061

便利なケータイサイトもぜひご利用ください。

iモード・EZweb・Yahoo!ケータイ 対応

チケットもご購入いただけます。

カジモト・イープラス



twitter @kajimoto_News

facebook

tumblr

YouTube YouTube

“kajimotomusic” で検索!

●やむを得ぬ事情により内容に変更が生じる場合がございますが、曲目変更などのために払い戻しはいたしませんのであらかじめご了承願います。

●未就学児のご入場はご遠慮いただいております。

●団体料金設定のある公演もございます。詳しくはお問合せください。

KAJIMOTO 〒104-0061 東京都中央区銀座8-6-25 河北ビル TEL: 03-3574-0550 <http://www.kajimotomusic.com/>